

黄泉無著の

「廿一代御朱印改参府日録」について

川口高風
川口高裕

天保八年（一八三七）四月二日に十一代將軍徳川家斉が隠居したため、九月に十二代將軍に徳川家慶が宣下した。そこで、皓台寺（長崎市寺町）二十一世黄泉無著（一七五―一八三八）は翌年三月から十月迄將軍への拝礼と御朱印改めのために参府することになり、その旅行の日鑑が「廿一代御朱印改参府日録」である。

表紙の題簽は欠字があつてはつきりしくなく、内題も不詳であるが、『長崎市史地誌編』仏寺部上（大正十二年三月 長崎市役所）六二二頁にあげられた皓台寺所蔵文書目録の「廿一代御朱印改参府日録」が該当するものと考えられるところから、それをタイトルとした。

同じ黄泉の文政十二年（一八二九）の参府日鑑については、す

黄泉無著の「廿一代御朱印改参府日録」について

で川口高裕の「黄泉無著の「参府記」の訳註研究」（平成二十二年三月「曹洞宗研究員研究紀要」第四十号）、「続・黄泉無著の「参府記」の訳註研究」（平成二十五年三月「愛知学院大学禅研究所紀要」第四十一号）の研究がある。しかし、本参府日録は蠹損による解読不能な箇所が多く、しかも後時に裏打ち修理などが行われたが、残念ながら年次順になっていない部分もある。そのため正しい順序に資料の整理を行わねばならないものと考え

る。そこで、川口高風と川口高裕は共同作業として解読、校訂を行つてみた。年次の異なりなどから誤つた順序になっているものもある。例えば「五月」の記事が二つあるなど、それらの考察は今後の課題としたい。本稿では、とりあえず現状のままに翻刻した。今後はこれに考察を加え、正しい年次順に並び換えて本来の参府日録を復元したく考えている。

本文を翻刻するにあたり、黄泉の行状を明確にするため日付の最初に「月日」を加えて一行ずつあけてみた。また、解読不能な箇所には□を入れておいた。

『廿一代御朱印改参府日録』（題簽）

寺十□□享保□□□年

□徳院□御代替に付参府仕候節、御奉行大岡越前守殿石河土

佐守殿え奉願、路料御銀□拾五貫目拝領被 仰付候

□□□□一文□□

惇信院様御代替に□□□仕候節、御奉行松岡備前守殿え奉願

路料御銀拾貫□目拝領仰付候

□千四

□被□仰付候、入院後御奉行所え奉願へ路料□銀三拾貫目拝

領被 仰付、繼目御礼参府□□□仕於御白書院壹束壹卷献上

仕□目見□□、御暇□候、時服三拝

□安藤□□□□□被為□□□御

列席にて以

□意住職被 仰□黒田筑前守殿え被仰付當地迄被為送届□□

□置候

□□□□□□□舟明曆ニ申ス

□□院様□□仕候節為□□

志摩守殿□□□守殿え奉願路料御銀□之目拝領被仰付候、

一、當寺十五代天苗天明七□年

右御所様御代替に付、参府仕候に付、御奉行水野若狭守殿

え奉願、路料御銀拾貫目拝領被仰付候

右代々之住持 御威光を以て三代月舟例格之通相違参□□

料拝領仕来候、今般又々

天保九年戊戌正月

皓台寺印

御奉行所

同文宛名なし、代官所え出ス

一、正月十一日、本蓮寺并青木隠居丹波守来山と申事は、互

に今般□□御目見に候、参府願□□□猶差□今年も天明

□年□如く御朱印地寄合□□

□□□□□并□□

□□□ 得共□□□

十貫目七□□□□□拝領にて返納不申上は格□

□面も相替候上、拙寺は一己之願出に□□□□参□□

當年御銀掛り久松喜兵衛、高島□郎、□□福田安左エ門^〆て

一、同日、参府願路料願下書久世伊勢守殿□人飯塚藤平入内

五ヶ所礼回致事 回り以使僧会所□人唱役礼札為□□廻し申候事

見之処、家老并用人共にも内見為致滞り□□相済申様致願

代僧之節者御朱印一同□末座に居候、則

面も品に寄候て加筆可申上と申呉、右之副□□□立願書下

天明□□□□□大音□不□に付候□□院□□

書相渡罷□事、○明日御見済□出ス

□□御代 焼香□□□相□瀬戸陶四郎作香合一座

書付□□

文化五年入院参府拝領銀之節に準候事

戌二月十二日 御代官役所

一、明日、江戸役寺より触状来文如左、去冬之日付にて二月到来

皓台寺

覚

一 十三日、方丈□躰之由、中断副寺罷出候処、大音寺え下

御朱印頂戴之寺社之輩不依寺社領之多少境内□□御朱印

青林氏筑後迄一同罷出候、尤當寺は役僧故下座候、□□

於令所持者 御朱印□下之御料私領等有之寺社領之□御

事 高木作右衛門出座、左書付を□被出段候□

朱印に写を差添□

皓台寺

□□□□□被持参致□□□

□□□

□□□□□候様可被触候以上

印□ □□□□候付 □□

西十二月

拾貫目為取之候

右之通被□仰出候間、□得其意其録并支配下御朱印頂戴罷在

□趣申渡候

候、寺院え不洩様早々相触来此、四月上旬頃□致出府江戸麻

戌二月

布宿寺え罷出、先格之通講指揮候様可被達候、尤其録請々印

右作右工門殿□渡書付請取□取則立山御奉行所□御代官所、

□可被差□越、此段申達候、以上

龍穩寺印

誰御代官所或者誰領分

天保〇年

大中寺印

何国何郡何村

丁酉二月

何宗

御朱印〇御代々所持〇〇不残御本〇〇〇〇〇〇行或者仮名にて

何寺

有之処者其通り御本書に〇違無之紙も引合相認上包并上書等

何国何郡何村何寺末

も御本書御同様〇〇御判物に候は、其所々御判と細字に調

誰配下

へ、御朱印にて候は、其所々御朱印〇可相認候、右御判物御

何宗

朱印之写疊候上に小ク誰様御判物御朱印と小札張下々方、何

何寺

国何郡何村何〇申儀を小札に認張候て可差上候、村替又者御

〇〇〇〇〇〇

増地〇〇此〇〇度も御朱印頂戴有〇〇〇〇

山林竹木諸役御免之詔

一 一付同年之〇〇〇月之順是入一〇

権現様

御黒印

年月日

右写不残一所に引合之紙にて惣上包打付書に仮令候御判物写

御朱印

年月日

何通 御朱印写何通何国何郡何〇何寺と相認可申候

御書出

年月日

〇〇御〇〇〇〇其外右之類半切紙に認有之分は、写も半

台徳院様

同断

切、豎紙は豎紙、行文字加〇〇等之詔御朱印写に准シ、

右之振合何通にても

大御所様

御朱印

同断

御本書之通紙写様共無違〇写候て可差出候

年号月日

〇〇〇〇〇〇天明之致御朱印頂戴〇〇

宿江戸何町誰店

〇目録下

〇〇

□□□□□

浅様□取調可致出何旨嚴重に可被相触候□□

○三月朔日、代官所より自分罷出候様申来候故、大音寺□同

□に不相成様申入候処、大音寺一道は朝五つ時□□九時と

申来候ハ、當二日、方丈正九時參上被致候処、左之通以書

付被申渡候事

一、今当度就 御代替寺社之輩御礼且

御朱印為御改、先格之通出府致度旨願出候に付、□寺社奉

行之掛合□□書有之□付□□

致処若□抄及遲滞候□月□□有□趣申□□出立可為致間、

江戸表着之上可然差図□度旨江戸表之申遣候間、何れも不

遅様出立着之上在府同役え為届罷出、差図請候様可被渡候

事

戌三月

一、本蓮寺、大音寺参府暇乞に被見放、四日方丈直に為別御

□□候江戸□□□□と口上申□□御差出□□事□□會□

□庫□□□□処吟味役弘方立合□銀拾貫目被相渡候 請取

書如左

覚

一、銀拾貫目 内金百五拾兩○銀八百□匁式口×銀拾貫目

右は、今般参府路料、先規之通被下置無相違受取申候、

以上

戌三月八日

皓台寺判

○^{三月十日}暇願看寺願添翰願切手願同日出文、如左

一、達て奉願伴僧参府来^ル 廿一日出立□度□□□御暇被為仰

□候様奉願候、留守中鑑寺之儀は當□永昌寺梵航と申付置

候為御届如斯御座候、以上

戌三月

皓台寺判

御奉行所 右最初に「奉願候口上之覚」と可書事

○^{同日}添翰預

口上之覚

一、御在府長崎御奉行え 壹通

寺社御奉行所

壹通

□□□□□□

□□□□□□

□□□□□□仰暇乞罷出候節□□仰付□

戌三月

皓台寺判

御奉行所

○同日御切手願 三月十日

覚

住持

黄泉

役僧

乾亮下

同

退全上

役僧

道哲

家来

石黒只助

同

大村吉助

外僕式人

右今般、参府仕候從當月廿一日九月十四日迄、日数式百日之

御暇被下置、往来御切手被仰付候様奉願候。

以上 実に同道致候△友永栄三郎△浦川昇次郎△稲部亀之助
尾州△柴田豊太郎△山崎幾松 二人相加ゞ侍五人

戌三月

皓台寺判

御奉行所

□□ □□ □□

○御朱印頂戴之例書

暇願にも□出之

一、大猷院様御代替之節、御礼申上候得共、記録等相見不

申。御朱印は正保五年二月十七日之御日付にて、御奉行は馬場三郎左衛門殿、山崎権八郎殿より當地にて頂戴仕候。

一、常憲院様御代替貞享元子年、當寺六代湛元参府登城於御白書院御代替御礼申上候。尤壹束壹卷献上之仕御暇被下候節、御時服三ッ拝領仕候。

御朱印は貞享二年六月十一日之御日付にて、御奉行川□□津守殿より當地にて頂戴仕候。

○昭院様御代替宝永六丑年、當寺九代雲外参府登城於御白書院御代替御礼申上候。尤壹束壹卷献上之仕御暇被下候節、御時服三ッ拝領仕候。正徳二〇年十月薨御被為遊御朱印頂戴不仕候。

一、有章院様御代替之記録相見不申。尚御朱印頂戴不仕候。

一、有徳院様御代替享保元申年、當寺十代笑巖参府。

享保二酉年正月登城於御白書院御代替御礼申上候。尤壹束壹卷献上之仕御暇被下候節、御時服三ッ拝領仕候。

朱印享保三年

下部丹波守役石河土佐守殿より□地にて頂□

一、惇信院様御代替、延享三寅年、當寺十二代一丈参府登城

於御白書院御代替御礼申上候。尤壹束壹卷献上之仕御暇被

皓台寺判

下候節、御時服三ッ拝領仕候。

戌三月

御朱印は延享四年八月十一日之御日付にて、御奉行松浦河

内守殿より當地にて頂戴仕候。

〔三月五日〕

一、俊明院様御代替宝曆十一巳年、當寺十四代愚谷参府登城

一、三月五日末寺塔司并世話人相招、弥當月廿一日出立之申

於御白書院御代替御礼申上候。尤壹束壹卷献上之仕御暇被

聞、且又留守中末寺立入堅固に相守呉候様申聞候事。 監

下候節、御時服三ッ頂戴仕候。

寺ハ永昌寺梵航、同看寺、副寺卓立差置候事も申聞候。

御朱印は、宝曆十二年八月十一日之御日付にて御奉行正守

志摩守殿より當地にて頂戴仕候。

〔三月十六日〕

一、大御所様御代替天明七未年、當寺十五代天苗参府登城於

一、同十六日暁天、留守中無難。海陸安穩之為大般若転読供

御白書院御代替之御礼申上候。尤壹束一卷献上之仕御暇被

養相設、隠居俱胝和尚へも麴子并後段馳走相おくり候也。

下候節、御時服三ッ拝領仕候。

□方丈□年寄宿老以下檀□頭分三拾軒斗回勤別□□手札差

御朱印は天明八年九月十一日之御日付にて、御奉行水野若

出置候事

狭守殿より當地にて頂戴仕候。

以上

〔三月十九日〕

御寺儀從□□御代替御礼。尚又□不継目参府之□□奉願□

一、十九日先触を貰文言如左 諸方より餞別来別帳□□

□□

□□

出勤成候事前□□□□

先触

今般皓台寺就 御用當廿一日出立、参府被致候条、宿々人馬并宰領式人無遲滞可差出候。以上

戌三月

長崎

皓台寺

役人

鈴木馬□□

長持 式人

長持 式人 一、□□ 四人

一、□掛 壹荷 一、合羽籠 壹□

一、本馬 式疋 一用意人足 式人

以上

廿二日從此間宿并ニ 矢上 皆書事

廿一日泊同断 大村

廿二日泊同断 彼杵

廿二日泊同断 嬉野

已上 先触小倉にて留置可申事。大阪乗舟止り之節伏見より宿御致し先触再び出し可申事。

〔三月二十日〕

三月廿日朝五ツ時、永昌寺を下宿とし立山御奉行之告暇并□

□□御請取罷出、正四時御代官列席にて奉行久世伊勢守殿挨拶□□添書使者之間にて家老被相渡候。

江戸表

御朱印奉行衆え一封 寺社奉行衆え□□

在府長崎奉行衆え一封 右請取相下り御代官所え行

切手相請取より鳴滝隠居和尚え告暇 明廿一日□七時出立、

馬駅問屋え申付、今晚馬來候様申渡事○今日町年寄

為暇乞来入有之候分 高島四郎大夫 薬師寺卯右衛門 (使者) □□□□ 高木清左衛門

〔三月二十一日〕

廿一日出立行列次第 道中宿之如左

一、杖払 二、高張 三、御朱印 四、御奉書

五、杖 六、乘輿 七、役僧 八、侍士

九、長柄 十、□箱 十一、挾箱 十二、合羽籠□

十三、□□ 十四、□□ 十五、□□ 十六、□□□

正七時□□□□

□瀨橋迄相送、隠居和尚使僧檀中頭分□□檀中之分、見送

□□見斗途中より断申相返候事、日見峠にて曙、五ツ半

時、矢上宿三谷二郎右エ門にて中食。末山塔司外護贈り来人

え中食出頭、此日天朗氣清。八半過大村投宿。宿役人町端芝迎三出 脇本陣松島屋

甚七方泊り。上下八人、宿料式貫文茶代表朱。掛物一軸途中

作。○十里郊外徳事耕残承台命此東行□□□感役□□遙奉鹽書賀太平花雖出□□去年來諸国凶饑米価高□に付宿料平生に一陪せり。後□□すへからす。

〔三月二十二日〕

廿二日快霽、明曙立。午飯嬉野宿河内屋虎吉方也。午□伊予法□寺先住円巖和尚被見舞。當時此辺、永住寺に閑居ノ由。先年□□和尚下にて同床之人の西來派寂照下ノ法□也。拜具茶二袋來此方より銀式朱、氷砂糖一斤、雲片香三進上候、當宿より出候馬僕御絵符相折、退全欠合にて今夕中栖新に致□柄崎迄持參致候筈。今晚八半時柄崎宿綿屋禎助泊り。宿料式貫文、夜中入湯三度鍵之湯え入也。

今朝、大村出立之節、問屋にて、當宿宰領差出候は鳴原候計にて□様えは差出不□候と役人浦川昇二郎□□。尤此間□□御□□本蓮寺、□□□□□□□□

書付可差出□□及欠合候上外之宿役人來断申宰領先触之差出申候。為後々相記置候也。尤皓台寺は大音寺、本蓮寺とは別

格之寺柄に候へ共、其心得可有之事、當宿にて絵符相折誤証文出夜中直し出候事。

〔三月二十三日〕

廿三日十分天晴、正七半時出立、牛津長崎や藤蔵中食。八半過神崎到着。長崎屋武右衛門方止宿。宿料上下八人式貫文。今日□□無事長崎出立之節、地藏菩薩小影海中流し被相頼候。□□四十八万六千枚□之輿、中日唱地藏名号一万返唱置、海中に□□□□と流し申□斟也。

〔三月二十四日〕

廿四日、今日路程不遠に付正六時出立。田代にて中食。長崎屋善九郎方也。當宿馬隸絵符相折申候。条三宿問屋連名にて今晚泊り、□宿え來、誤証文出候文如左。田代宿役人奉誤候書付□。

一、今般御参府に付、當駅より繼立馬曾根崎村権平と申者御荷物付越候処、於途中御絵符為損候段畢竟。宰領不行届之次第奉恐入候付、於山家宿原田宿役人一同御断申上候処、御

慈悲之上御内濟被成下難有奉存上候以来、右之者御通行之節、決て召仕申間敷□万事公入□□□□□呉書 □□

九戌三月□四日 原田駅問屋 山崎由平印

山家駅問屋 竹手久左衛門印

同宿御本陣 近藤弥右衛門印

皓台寺様

御役人様

原田宿に到候処、領守より今般誰往来有之共無賃之宰領一人も差出間敷旨以書付筑前中え申渡候故、迎宰領不差出候欠合

一、原田宿にて宰領式人差出候様、御先触に有之候

へ共、當領内においては無賃之宰領壹人不差出と申出候。

□書付候差出候様に□申渡候処 一皓台寺様御通路之□無

賃之人馬宰領等不差出候、此段以書付申上候以上也。宿役人

名□差出候。皓台寺様御通路之節御朱印御奉書たり候処、無

賃之人馬宰領等不差出、如此加筆致候処御朱印御奉書と申文

面に差困り左候て、重役え伺候上にて取計可申旨申出候付、

於此儀已に先触差出置候事故、差掛り候て右等之返答は無之

筈兼て宿役も被勤候身柄前広決段可致置筈候併無賃師にては

宰領不差出、国法候は押て差出可申と申訳にて無□□加筆之

□□にて書付可差出申間□□実は重役より□

迎□□ □□□□

不及□□ 勿論□□□

□□共其前にも出附可差出筈にて人足計□□之儀出来致候節者如何申開被致候哉と理解申聞□□進退相窮り畢念之段断申出、速に宰領式人差出申候也。

一、今晚山家宿御本陣近藤弥右エ門泊、此日早泊にて方丈役僧乾亮侍三人宰府天満宮参詣御初穂南鐮二片日暮に及山家に御着宿料上下八人式貫文

宰府天満宮奉納和歌○神もしれ幼きより此道をかつて老はつ

か身を 黄泉^上

(三月二十五日)

廿五日晴天、七半時出立、冷水峠相越候処、小屋瀬長崎や善

九郎迎出居、正九時、飯塚本陣長崎屋留間小四郎中食、昨

日、小屋瀬本陣より當宿迄迎出候由、當家主人被申候、當宿

自然、蘋薯二拾本献上、當所より舟にて小屋瀬え下ル、尤河舟ワレシカハ

壹艘也舟中悉く體相立申候事と切上下御荷物とも乗込風景妙絶順流如射箭 ○舟

下漆川四首

清□兩岸遠谷風、釣路漁津情欲通、千里東行、送春□□夕陽

中。又 歩疲万嶽又千□日午買舟慰旅□□笠管衰衣回。一□

春風送夢下川源。 又 身□□勞□自閑向東忘却鎮西此布□

□住春峰暮

□□□□□ □□□□□□

辰□□□□ 至ル河役人□

□平方之□舟着□味噌漬一箱献上

〔三月二十六日〕

廿六日漱雨、従前夜濡下正六時出立、黒崎にて雨歇、正九時

小倉□中原や嘉兵衛方□□にて不都合故、同家新宅中原や久

平方え止宿着乃中食、直ニ舟欠合候処御順檢御用にて舟止

メ、彼是欠合壹艘役所え皓台寺御朱印参府と申願候ケかり□

四丁櫓にて、今般三百匁日ニ飯代百廿四文ノ管風順次第明日

乗込中管櫓一丁八十匁船銘武運丸、船頭長左衛門□七也○中

原やえ土産□□□漬三十入一箱□□□□□二□瀬戸香合一口

當家吉人墨迹一幅葛一□□□□嘉兵衛茶草□□頗雅話あり。

戌刻申して就寝

〔三月二十七日〕

○廿七日曇天、雨氣如□早飯に舵工来見へ荷物を舟に入御朱

印并御奉書同長持に入吉番之間案し嘉兵衛并舵船工へ申付

不急候間風波を犯し進むへからず。太切之御朱印に候へは

山□計り廻り行、丈夫に相□行舟の□□計を貪へからず。

此日書状相認、長崎皓台寺并に鳴□老人に寄す。今日尔前

閑暇に付、広寿山え参詣す。○正八時船頭え金四両相渡舟

証文相取中原屋嘉兵衛奥印○七時乗込中□□中菜物漬物味

噌餅等外□産□□□鉛□□

□祖忌□夜半より晴天五半時、小倉を出帆□八分頃下関□

□あしく今日繫舟役僧役人共上陸阿弥陀寺参詣、今日八半

頃順風出帆波上平穩、明六時上関え着、一夜に周防灘三十

六里を過、頗る快意たり。此夕より地藏菩薩を流しはし

む。

〔三月二十九日〕

○廿九日快霽、風止波静、海上如鏡、櫓を出しすらむ、室津
 二かり入浴浄□中食了テ九過時出帆、順風堂々□○宝積無
 契符をかさし此島にも女人形□普賢菩薩を勧請せり、日暮
 より逆風にて予州欽津和といふ浦々繋く終夜ここにあり。

〔四月朔日〕

○四月朔日快晴、朝五前より櫓をおし出、船中□□諷経□□
 □□四時鹿老門と嶋にかり風を□□時島人家□汁奇麗山
 水、□□□□おし出し芸州御手洗嶋を過ぎ笹島にかゝり天
 明にいたる。

〔四月二日〕

○二日正六時、順風笹島を出、満腹有風、四前風東南に吹、
 帆をおろし揺櫓四過より風あしく潮逆ひ鼻くりの瀬戸にか
 り日夕に及ふ、暮六時より潮よく揺櫓して行と八里備中弓
 削にかゝる

曇天、明六過弓削をおし出す、逆風高□舟中菓

□□□□□□ □□□□□□

□□□□□□ □□□□□□

〔四月四日〕

○四日大日曇天、北風強し、朝の間、鞆之津に滞留す。小松
 寺に□□□内大臣重盛公之廟并に手植え松を見る。○から
 なし乃薩よりたかく、榮へけかきらすかめぬ松乃一本。○
 富貴興亡水上萍、青山只有老松青至孫不在僧房在感涙沾衣
 立院□^{難小}□此日終日、北風尚鞆のうへにあり

〔四月五日〕

○五日今朝快晴、東風御より舟不能出、象頭山へ詣せんとす
 れとも、尚風便あしき由 ○舟泊鞆津、孤舟二日緊蘆湾、
 同前□帝成外山、僧院不知何所処、鐘声半夜鷄雲間、○揖
 □□□野、舟に数ふればまた深き夜の山寺の鐘○此日七過
 鞆を出、仙碎島を過て帆を張れり。此夜、讚州金毘羅宮に
 詣す。

〔四月六日〕

○六日朝快晴、正五時讃州多度津へつく、上陸金毘羅宮へ詣す、往還六里廿二丁、八半時、帰船直に出帆、○金毘羅宮に拝す時、社僧内陣へ入へき由案内す、方丈は内陣の正中へ通し、従者は内陣の左辺へ案内す、読経して下山、泊□
□并糞料を献す、

曇天昨夜□朝五半頃備前□

□岡山の□□ ○今□□□を□

躑躅の花辺○八半過備前牛窓に行く、○偶成、□□冷白、孤灯半夜青、□花三十里、拳□望前□、

〔四月八日〕

○八日、前夜より北舟篷を葦□の用意す、終夜催してふらす、正暁七時、牛窓を出、五過せうど嶋にかり□□半□舟中献供仏生会を修す、○舟中仏生会香語、一月千江生死身、篷窓転影徒迷津、□門屈棒拈為楫、白浪堆中漢此人○八時せうど嶋をおし出す、漱雨些々七半頃、赤穂□橋にかゝる、

〔四月九日〕

○九日漱雨不歇、朝五頃赤穂を出、風あしく櫓□□□五半過、室に□□□□□□に入津す。雨尚やます ○船中謾興
湿雲低似幕篷底□如年、潮湧濯崖足漁夫謡鼓舷、○八過快風、船頭船法用事打断不得止半日順風を□□満船不快之情を生ス○此行□所欲□待正西風風落舟未発、軟言責舵工○
今夕珍牛和尚十七年速夜、船中より上香菓諷経、

〔四月十日〕

○十日晴天、六半時順風、室を出、此夕より処檢上使、室より船に乗込、九州諸六□馳走船数十艘おのゝ吹□道具纏幡等を立、大鼓を打、高張を燃し郷中□□し、七半時、明石につく、従者皆人丸宮詣す、□□温飩を喫□□如七鯨吸□□○今午□今夕和尚上供諷経、
晴□□□□□□□□□□□□□□□□
繫舟□三列□身独り□行□□□□
□□穩然として兵庫を過、夜五時常安橋に着、退全大和尚
□□行宿相定め就寝、此日長崎^{即日見舞状ヲ出ス}大火十三町焼失之由承、昨

日□□□侍士三人□曾船頭へ諸入用相弘列帳に委す、

〔四月十二日〕

着後

○十二日漱雨、船中にて早飯、方丈先に御揚り、□座舟より

荷物大林え揚ル、大林へハ長崎より兼て書状遣置候故、万

事行届之奥座敷四間□切□居、四頃より快晴、荷物相改

畢、長崎へ書状を出、入浴休息舟□□□を此日□方箱崎小

竹橋本藤左エ門祠座長役近藤半□□を訪ふ、□□五□歌あ

り、以□和之○他席他郷聴杜鵑、客中客□和籬篇、羨□今

愛兼子姪、□扶歎□膝□又 □花□□旧帆□、復員扁舟

向帝郷、尚有故情不本去、□随殿水到銅房乃銅座也○今暁、役

僧乾亮一人上京、用事を整、明後日大津にて出会之鉤也、

五頃夜中橋本藤左エ門殿来訪羅□話、

〔四月十三日〕

○十三日□晴、今日橋本氏、箱崎氏、近藤氏、放土念天 殿相前肥後屋敷を弔

ふ、御座三種つゝ、今日、橋本氏より茶湯之請に赴く□侍市

中一見に出す名香七種橋本氏の乞に与ふ、今夕上京し、支

度卅石一艘買上、七半乗入、漱雨相降、夜半より晴天、箱

崎氏より久話書画一二幅展覧、橋本江戸堀五丁目○箱崎社□□□
外横町○祠堂大川筋□□□□

快□□□□□□□□□□□□□□□□

□□先□□□□□□□□□□□□□□□□

中食大津田中屋献上盃□□□□七、一汁三菜至極丁寧、今夕草津泊、□

□□□□□止宿、依之本陣田中九蔵、田中七左エ門式軒よ

り途中迄代出右差合之也、断申来、今夕坂本や文六泊り、

御朱印、長持、貫目改なし、外巻物定式通り相改候、東海

道宿料□□已下は改□式三百五十人、尤随分丁寧也○田中

七左エ門見舞茶香壺盤献上表具軸盃遣す、

〔四月十五日〕

○十五日快晴、正六立、今日□程二大名其外上下混雑水□富

松や喜□□にて中食、然処坂下大竹や人来、今日坂下大混

雑何卒土山又ハ関ニ止宿被申来候へ共路程張付坂下小物屋

□□宿頭大竹や□人来菓子一碗献上、暮六より漱雨、小笠

原市左エ門より之菓子来軸壺幅宛遣す、

〔四月十六日〕

○十六日晴天、正六出立、石薬師御本陣小津惣左エ門方にて

中食、今夕桑名にて止宿し、忝人に先触出し置候へ共二〇

御番衆并石州津和野、日州延岡侯三頭、今宿にて四日市脇

本陣清水太平に止宿、座敷美敷快□□、善篤寺泰門和尚、

當十三日大光院へ転移、十三日入院相済申候由、右今夕賀

偈一律を綴日○一曲道従唱大風、十年昼錦照新豊以尾州人故云云

名藍人埃高□到、大光虛主席者三〇于此北地单如東海隆師頃有越州某山鏑請伏徳

□□帰祖訓、祖規有肅橋魔御竭力授之略□興国□□□賢人

□□□□□□□法□□□好□

□□□□□□長崎□□□□□□□□□□

尚又屋敷内より船出し家呉舟役人也、旁都合可宣と申遣候

□□□□□□日七右エ門森玄仙両家え寄贈心経一冊清曆一冊深更に及桑

名藤七より返事□状来、今日関宿宰領を届道中奉行より被

渡候よし

○十七日快霽、神君諷経経祥、朝六半時出立、途中迄桑名熊野

や并に駿河や善七迎に出、四時善七へ着舩老艘借切渡海、

此家にて中食す、森玄仙より使者来、練羊羹一箱、善七献

上、塩見饅頭卅顆、八半□宮着、諸寺院数十寺、在家四十

九人、舩迄迎に来、白鳥山より駕□迎有、脇本陣小出太□

□え入諸方見舞、組重逐菓子煮□等不知、数十年□有開展

来究、夜は半過に及○四号 十歳一帰来感巨堪、六人兄弟

已亡主、旧朋不浅、吾輩子細語丁寧、□後談

〔四月十八日〕

○十八日半晴半曇、早朝熱田明神、白鳥山本師墓、先考妣之

墓に詣し、江崎氏にて親類相集中食、帰宿、明日出立之用

意、此より柴田豊太郎、山崎幾三郎、江戸え相従ふ。今又

来客如市、各方え土産分配す、七時より漱雨□□心経忘筆

板出来、校老致返す、夜雨□により

〔四月十九日〕

○十九日曇天、正六立、□宿宰領上人出、鳴海迄僧俗迎来人

三十一人、□野□□□忍にて点心を出し、前後村丸や清吉

にて蕎麦にて中食、乃蕎麦□献上、八半前、岡崎泊、油屋

清蔵、今晚二僧御番にて□宿、墨□

能登守宿り、箱根土佐少将宿り、小田原阿州房泊り、宿に

□□□□ 菓子三品□

人馬□と□共塞り被下、當家に泊りに相成す、九當家本陣

に相成候へ共、また宿□無之内故當家宿りと相定、明日人

馬大不都合にて今日箱根宿迄、小田原□幾藏、吉助兩人相口遣、荷物無し、駕御□印計り

當宿と□□、中食了て□□□、神參詣、御初穂献上、小田

原迄之人馬代□宿にて払、今日八過□箱根大火之由、三島

宿一統騒動、日暮過飛脚到来、箱根宿不残焼失、土佐侯御

着、無間焼出し火両方より宿を中にはさみ、右之土州様上

持願杯相開居処故、駄荷廿段□十式棹計鈍これを救ふ、家

来衆怪我道内、夜五頃、先行之者より飛脚此来、箱根より

八丁此方迄行処出火に付、一里半辺り山中に宿相取候処、

一宿之諸人山中一村え一同に落込甚物騒に候間、明朝一人

早く取下候、馬借を飛脚となり申来候、夜五半過、宿役人

より明朝ゆつくりと御立可有之候、□□箱根宿馬□場相や

け往来残火にて中々往来御来不申由、右之沼津に亀井侯當

宿に延岡候間々山中二土州侯 □家中 小田原に阿波侯□□□

□□□□

日州□□侯泊り、黄昏上下□□

成共と□□□□□□□□□□□□□□

〔四月二十五日〕

○廿五日晴天、今日東師□月□日□□□候三〇拜展今日五過出立、箱

根宿に到候処、一朝残焦土あしふむべし、御関所被次々本

陣も何方に居候哉、□□申役僧直に欠合例之通、乘輿通

行、上下十人は笠を取候のみ、今午畑宿にて中食、七過小

田原え着、尤火事にて先触刻通諸方みな相くるひ、今夕小

田原に長州侯、柳川侯、延岡侯等諸外諸□夥し、本陣断申

出さし宿かのや宅左エ門に宿の今日午時に暫時雨降、出日

夕晴天。

〔四月二十六日〕

○廿六日晴天、七過立酒川□台越中食、藤沢前南郷□戸八左

エ門□□□は対馬入川舟越戸塚宿鎌倉□安左エ門陣脇本空□

罷出□座今日七過頃、保ヶ谷宿脇本陣兼子伝左エ門、當宿

日州□□侯泊り、黄昏上下□□

〔四月二十七日〕

○廿七日晴天、正七時立、□□にて□暁、中食品川、八時
向島法泉寺□□主人御留守、入寺休息、七頃主人帰山、緩
話高祖宿迄一巳に諷経□□□□こ、此夜旧記を見合、例書
等致□

〔四月二十八日〕

○廿八日曇天、主人え拜金二両毛□、紙一本、茶菓子一箱、
隨身之衆へも南鐮□遣す。今午一□、午後御房主河島円
□、河島清伝へ二百疋は遣す。日雇頭紋兵衛へも百疋遣す、
使僧乾亮長老明日□□□ 十月□
月番□□□□□□
□到着□ □□□□□ □□□ □□
天中代謝礼五百疋と有り、一例書、口上書、手目録、□□
中奉、

□□手札

今般御代替付御礼并長崎 皓台寺
御朱印御□参府仕候 宿所向島法泉寺

肥前国佐加玉林寺末
龍穩寺触下 曹洞宗 皓台寺

○口上書壹通、奉書半切寺社奉行月番え相出す。長崎奉行龍
穩寺下御代

一當寺儀境内 御免許之御朱印被下置候、依之 御代替之御
礼之参府候儀、先規之通被仰付候付、今般参上仕候、献上は
壹束壹卷にて於 御白書院独礼 御目見被仰付 御暇被下候
御節、御時服三拝領仕候、先格に御座候、長崎御奉行より□
添翰被下候、弥先規之通被仰付候様奉願候以上、
天保九年戊四月 長崎 皓台寺

寺社御奉行所 宿所向島 法泉寺

○例書大奉書半切

一當寺十二代一丈、延享三年四月朔日 登城於 御白書院
御代替之御礼申上。壹束一巻献上 同七日於松間 御暇被下置候節、御時服
三拝領仕候
一當寺十四代愚谷、宝曆十一年三月十五日 登城於 御白書
院 御代替之御礼申上、壹束壹卷献上。同廿日、於松間御暇
被下置候節御時服三拝領仕候

十五代天苗長□□□□□ 登□□□□□

替御礼之御礼申上、壹束壹卷献上仕、同七日於松間

御暇被下置候節御時服三拝領仕候

右之通相違無御座候、以上

戌四月 長崎 皓台寺

右之例書、口上書、寺社奉行月番龍穩寺長崎奉行、此三

処へ出し、

手目録 是も三通奉書半切に認、龍穩寺ト寺社奉行月番と御朱印本多下総守奉行とへ出候

肥前国佐嘉国村無末

龍穩寺触下曹洞宗 皓台寺

境内

大猷院様御朱印

正保五年
二月十七日

山林竹木諸役等免除

常憲院様御朱印

貞享二年
六月十一日

同断

有徳院様御朱印

享保三年
七月十一日

同断

惇信院様御朱印

延享四年
八月十一日

同断

□明院様御朱印

宝曆□□□□

同断

□□院様御朱印

天明八年
九月十二日

同断

右之通相違無御座候以上

天保九年

戌四月

長崎 皓台寺

宿所向島 法泉寺

今日法泉寺檀頭田中金六見舞に来、本家新家両方え土産遣す、

廿六日曇天、早朝出立、樽三人、使僧□人、侍老入 挾箱 □□□□

回動如左

一寺社奉行青山天□□殿へ□□用 服部仰□□ □□□□添

□□

口上書例書相渡持入□□□□して逢拜礼儀、壬四月十四日に□

伺に可出旨□乃引取○次に龍穩寺へ行、手札相渡、奏者別席

之通□□□□具有無之事相尋候処、不相分様子別々内拝申入

候処、方丈病氣之由にて内拝□□□□来□□申別席□上膳高

茶台出立之節、監寺和尚奏者或□式台下屋敷迄送し○次に大

中寺へ行□□不明内□計致拜具唐紙百枚唐うちは一本、湯

茶式有、うとん可被下由支度□□□得共龍穩寺馳走□□申断
 相立 ○次に南八丁堀本多下総守御朱印□□人安藤小三郎
為勝六万石に逢長崎□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
 □□相促戒会も行度□にて□□被相□候勸□□□□□□□□□□
 寮主也、提唱被相願候へ共老病□□特受は朱印濟次第婦寺仕
 候故也

〔四月三十日〕

○晦日雨天に付在寺、遠州積雲院日蓮ナリ実英和尚来訪、乃返礼使僧
 遣す、其外来客多し、明日回動用意、泉立寺退受来拜、乃
 相頼。豪徳寺へ使僧に遣す、拜具五種大光住旧隨也「泰礎和尚遠州秋葉
 山へ移転、此節参府使僧遣用意拜具、推朱大香合、其外三
 品

〔五月一日〕

□□□□晴五時出門、□□神田□□ 乗夫より□□ □鄭□
 □□
 □□□□□□□□ 水道橋外□□和尚、 □□公用

小左エ門□長崎奉行より添翰御座候へ共、本多下総守、井上
 河内守、□□□□□□旨申例書口上裏相渡退出、次に長崎奉
 行戸川播磨守殿へ行□□□□久世伊勢守より添翰出し候処、播
 磨守出勤之間、御帰路乍御苦勞□可□□□□□□に付総寧寺
 卜行着届申入退出、竹町大円寺□拜具展礼午齋を喫し、再戸
 川氏え行用人案内播磨守逢以書付被申候、一御代替御礼且
 又御朱印為御改、今般出府之儀、願之通於長崎表可申渡之処
 寺社奉行衆え一応打合候に付、於彼地

□□□□相後連則於□ □□□□□□□守□ □
 □□ □□
 □□□□被成候、今夕田中金六遂菓子□参見舞

〔五月二日〕

○二日半晴、龍穩寺より呼状来、○葬儀有之候間、今日中役
 僧壹人可被差出候、以上 □四月二日 龍穩寺
 皓台寺返被仰達候儀御□□□□役僧壹人罷出候様被仰達
 奉得其意候右為御請如此御座候
 即刻役僧退全罷越候、此日長崎本蓮寺方丈より使僧到来、

く約定尤寺号名札も出来之筈約束に候、□□川越孝顕寺惟一和尚使僧西核来、是二茶器一 拝具来、尾州油屋半七に延命經有之間為□相弘呉候様頼来候○今日五味平馬殿より使者来、茶菓子来、近々一夜有にて事被下申来、月末も可相成相客 今日田中家内来拜○川越孝顕寺使僧返書晋物出来

〔五月四日〕

○四□□悟谷夜前九過帰寺龍穩寺□□□□如左、○龍穩寺□□□□御礼登城□忝書可□□ □□□拙僧者
自□後目様礼□も添翰に於て□□十切□□□□□□
□り添翰拜相更候先例也○御朱印写去年御触達と□□□□
替□□□□に相認□筈尤とち本三大美農 牧野備前守 本田下総守 龍穩寺 手目録相添 本大鷹
□御朱印之通折仕立、左通り六これは御老中え出□□手目録相

○到来届之拝具なし、但し土産として宿主え毛壇式枚、看寺え沓枚、備前直正口 奏者泰瑞え百疋、典座義定え南一此二人は定式にあらず、別段罷立見合
り、○當七日役寺にて御朱印改有之付、五半時分罷出候筈、○内拝は宿主え□意間にて致候故定式なし、○内拝は

黄泉九拜として寺号なし、おもて拝は寺号、名和南拜書也、○此日亀之助、昇二郎、日光山え参詣暇遣す○

〔五月五日〕

○五日快晴、昨日八半時より大風、夜前八半時麴町より出火
□朝□半時□□明日悟谷師少し病氣にて帰国、今日尾州へ書状遣す。○今日當法泉寺大会□建衆吉祥寺より廿人余惠亮繁五并
来、式百文宛与ふ○授戒五月九日より相定、○今日梅や敷梅童子塔を弔ふ、○方丈大衆より大会中円覚講演願出。答
曰、病後講を止め成会に可講。○

〔五月六日〕

○六日晴天、悟谷和尚師ヲ□し出立、○此日法泉寺大会入寺配役○明日龍穩寺え御朱印改に行、茶事支度用意内拝具何々表拝具毛セ
ン、コレモ名斗九拜方丈役僧二人、侍一人、□□一人、挟箱一人省略如是○留守に竹腰山城守殿より使者来○
□□□□□□□□□□合筋橋迄□□□□□□□□□□
□□時待合并寺院七ヶ寺来皓台寺は例席□にて待時至て□

□□寺社奉行より龍穩寺え申出、夫より申伝候、尤此度長崎奉行より使者不相添旨龍穩寺え申候○同□□天明七之記録如何□□哉○答□左様之儀記録面に□覓□不申候○同當方より天明七年之長崎奉行両家共記録見合候へ共使者相添候事相見不□、若本田牧野両侯にて當家より之使者□□可相添□被申て早速相出可申、此段御談申度今日御招申候乃退出○

〔五月十二日〕

○十二日晴天、無事組合四ヶ寺え乾亮使僧へ遣す、雲衲六人拜に来○延□□□□□□○尾州契順尼来○今日□請に心し
 禪戒篇開講□□ □

〔五月十三日〕

十三日曇天、午後激雨、○豪徳寺使僧濃州龍泰寺方丈来入、明日より用意進物等出来○日雇頭門兵衛□遣す○登城下り老若寺社へ本多戸川えの手札△如左尤老中ト長崎奉行は毛氈二枚宛若年寄本多侯は壹枚宛龍穩寺宿主二枚看寺一枚奏者二束

黄泉無著の「廿一代御朱印改参府日録」について

大中総寧へ宿主一枚看寺へ式朱、奏者一朱寺社奉行衆は回動手札ノミ晋物なし。此年札老若□□朱□奉行長崎奉行え出頭三利表向拝表して監寺は折紙にして□□□□□行□

今日御代替 御札申上候 為御□罷出儀	長崎 皓台寺
具唐紙 皓台黄泉	皓台黄泉和南拝
上奉書 鑑司大和尚	同上 皓台寺 奏者

折紙打付賀拝表 □□□□□□

〔五月十四日〕

○十四日曇天、紋兵衛来入用之人足欠合○今日総泉□□□□□
 □□借用役僧退全□□□□○青木筑後守より明日之様子聞合
 に来、此方□古記録追申遣候返答公方様献上束巻御老中へ毛氈
 二 若老中へ一枚寺社奉行シナ長崎奉行ニ右之通り申遣候○今
 夕為時民読法一村中より願来布薩説戒今日之用意駕ノ泥台
 取除事□御朱印奉行本多侯えは此節回勤なし○長崎奉行久
 世氏え返翰申入事は御朱印相済候上にて可申入事○今日乾

亮青山因幡守殿へ弥明日之事承合に出候事尤外寺院は自分何に罷出常口先年も役僧出し定規

○覚 此書付奉□□□□認出す

一 皓台寺、先年より御目見申上候御用來候法服

一本緋官紗衣 一茶地縞金五条衣

右之通代々用事候以上 長崎 皓台寺

戌壬四月 役僧 乾亮

尤先年より俗服は不書上候例也、向後も尋取候は、左様可

申事、俗服は

當日登城用 白綾衿 同帯 同足衣

○青山因幡守より来達書

一 明十五日六半時 御城え可被罷出候 一回勤ノミ用

閏四月十四日

〔五月十五日〕

一 〇日雨天、正七出寺、行列如左

徒士 対箱

同 大傘 侍二人 栗色駕人 侍二人

同 同

後□人

草履杖人 役僧二人 草履一人 □壺人

雨傘二人

献上長持人二人宰領人一人役僧人一人侍人一人僕人一人鉤台人二人 〆四拾人尤減少如此、

右献上長持は御城大玄関えおろし献上相出し河島円雪指図△

松之間え直ス 正六半、入城御城下乗橋にて下り下馬、先役

人立出世話□此百人組ナリ川村五助 三百疋え御玄関大番え疋二百此式人當日遣す、五

時内習礼有之暫時右□寺社奉行衆御揃習礼御老若中登城上公

方様は出座、姓松平左佐候○松平对馬守廿四万石上州侯○永井飛騨守〇ツシマセ○亀井能

登守○□□愛宕僧正慈本院天台○般舟院○湯島根生院真言○長崎皓台寺○

讚州金毘羅金光院真言 播州多田多田院に、次に八人御白書院

□社、御勝年より佐渡奉行鳥居八左エ門。御次一同

中若年寄寺社奉行、長崎奉行関三利回勤、此日雨天にて回

勤、残り分は明日回勤之筈 今日弁当持参途中にて喫布 八

半過帰寺方丈より湯茶雑煮上膳也今日御立合。土伎山城守 水野舎人。加藤鞆貞

〔五月十六日〕

〇十六日晴天、□五前乗船、高輪迄行、大中寺隠居案山和尚

を泉岳寺□□聞了院に吊ふ、次に龍穩にて毛セン銘々□一黍

二枚

二枚

□本午齋六人え□□者□

□□□○次に長谷寺へ行不□□□

□□間忠□□□、次に大中寺□□□ □□

七百□ヲ弔ひ、築地より舟にて帰山○彦様儒者長戸官司□

□□

〔五月十七日〕

○十七日、今日當寺方丈上堂、隣寺諸山来聚相見拜、次に吉

祥寺大衆老、次に近所菴主尼僧来拜○八時長崎諏訪高木父

子来訪

〔五月十八日〕

○十八日雨天、今日公方様墨田河御延氣ノ筈、雨にて相止○

九時に乾亮明日登城之伺に出、夜に入帰寺、帰途日雇頭紋

兵衛へ欠合、明日之用意行列如十五

日 青山氏より差紙来 一明十九日五半時 御城可被罷

出候 四月十八日

〔五月十九日〕

○十九日半晴半雨、曉七時支度相揃五過登城、松ノ間に扣、

時至て□纒之間にて習礼□□□ 御暇被仰渡寺社奉行御門

番青山因幡守殿付添御目付一色主水御番御目付水野采女表

組頭□野辺終徳立合 一御暇被下 二御時服三被下 三御

暇御時□□□御礼都合三度罷出、五時下城、回勤如十五日

今晚尾州老中市谷

合羽坂五味平馬殿え請待止宿、茶式会席丁寧也、夜食信州

引□了□うす茶

〔五月二十日〕

○廿日雨天、朝六半時洗面喫茶五味平馬殿薄茶小食相伴二而

□□了テ看読○四頃□□□□□□□□□□□□□□□□

三帰戒を承く、午時うとん□□□□□□□□□□□□□□

□□□□

五味平馬殿市谷御長屋□□処御籠□□□□□□□□□□

先々一回所と□□今日□□法泉寺□□授戒も各□□□□義□

□□□□□五味同御屋敷□□□□□□□□□□□□□□□位御尾州様より被進候内二意

尚登城にも路近く人足等も手入有之何卒勘考御□□らと申□□□

榎途犬山殿見舞□茶口取□□し出丁寧

〔五月二十一日〕

○廿一日晴天、今日入梅、来客尾州雲興寺、相州鳳□寺、遠州積雲院、江戸中島左中来拜○明日田中金兵衛え請待、廿三日牛込天徳院え請待申来○大中寺閑居安山和尚肖像贊、成福寺斯□長老、□□贊出来遣す○五味平馬より使者此間の礼申種々送来

〔五月二十二日〕

○廿二日終日、来客紛々、午後田中金兵衛へ招請、堂頭并恵亮□□相伴田中ニ而□を□□ 都□すみ田河□にり□□□おしはつす□□規帰路梅屋敷にて喫茶○増林寺大衆某拜

〔五月二十三日〕

○廿三日、今日牛込天徳寺え招請にて暁天提唱□□晴天天徳院行種々馳走組合寺院来集○豆州最勝寺(マヤ)隠居大鏡和尚天徳え来拜旧知己也、薬石了船にて送らせ定陵後帰寺○此日堂頭并退全□□にて龍穩寺□行止宿○武州宗円寺額二枚頼来

〔五月二十四日〕

○廿四日曇天、天徳え道喆長老遣し外拜并最勝閑居浅草祝言拜具おくり○七時戸川播磨守役人○状来如左

御手紙致啓上候、先日は初て□□□□□□□□
御礼□御朱印御改に被仰出座被成□□□□□□□□□□之由
播磨守方え御差贈御座候段□□披露□□右付拙者心得之為
左之通御問合□前文之御音物者天明度御先格に而御贈被下
候儀に御座候哉、且又其節之長崎御奉行為御答礼之御贈物
何様之品御送り被申候歟致承知度儀に御座候、若其節之例
相知兼候は、御寺御入院に付為御礼御□参府被成候節も長
崎奉行え御土産御差出物被成候哉就夫御奉行より御答礼之
贈答共之品何に候哉御振合之儀何卒午六ヶ敷御取調被仰知
可被下候以上 壬四月廿四日

皓台寺御役僧様

戸川播磨守内

神崎保輔

右返事天明度之先格付持越物致晋上候、尤其□□御答礼相無之旨申自分継目之節参府仕候ても御奉行え晋上物致候へ共其節共御答礼物不被下候と申遣候○日暮、退全龍穩寺え帰山、泰瑞入組之由

〔五月二十五日〕

○廿五日雨天、無事尾州横井より要用ノ来○乾亮御朱印写□

□□□之内見に入○今日□□惣泉寺え供物相済□来に行金

二百疋毛氈一枚拜呈、今日御朱印写内見相済

〔五月二十九日〕

○廿九日尽僧俗来客多し、市谷河瀬部やより女中共来説戒を

乞、墨跡を乞、今夕布薩

〔五月二十六日〕

○廿六日雨天、今朝駒込吉祥寺へ見舞○留守麻布龍穩寺より

□味□□□書状到来一日招請被来○□□□□□□□□□□

□寺御来拜○秋葉山え廿八日招請□□□□□□□□□□

〔五月朔日〕

○五月朔日、終日来客多し、遠州円通寺市谷御所内□□□菓

今日小石川祥雲寺より大山殿に逢要用式通差出□事

師寺筑後守使者来菓師寺宇右衛門殿へ折し物来、○乾亮本

多候と御朱印済□伺に土未審

〔五月二十七日〕

○廿有七日、今日秋葉山より再請使僧来○昨日龍穩寺□僧へ

御礼書状遣す、夜間高祖遶行、然処當寺に永祖之位牌な

し、□□即□江戸へ注文代銀三十五匁にて寄付ス

〔五月二日〕

○二日晴天、今日円通寺并に菓師寺え返、謝使僧道詰遣す、

永野書画□御方え頼遣す、

〔五月二十八日〕

○廿八日法益了、秋葉山え請におもむく、終日馳走、仙石一

〔五月三日〕

○三日晴天、壮気和尚来迎、終日無事

徳寺来着書状来乃宿付青柳町護国寺え使者遣す、代□吟□
元異郷相会復他方莫怪化城裡殷勤礼法王○上林菴帰□□○
市谷老女河瀬え音物遣す○小石川祥雲来、牛込宗参寺来外
□□

〔五月十二日〕

○十一日雨天、五過より晴、来客多し、大中寺使僧同閑居和
尚より地□一剂両□五味平馬より使者来秋葉寺伊豆最勝院
来拜、今晚尾州老女中より甘露門

〔五月十二日〕

○十二日晴天、今日□全家□□夜に付、今夜捨身○伝戒八人
○来ル十六日□□□□招請申来○當十八日、馬喰町墨江氏
より招請○當十九日は浅草組寺院より招集二日請待申入○

〔五月十三日〕

○十三日晴天、豆州修禪寺倍苗和尚、其外十式ヶ寺来拜。今
晩さんげ九時相了。終日供養□施主すみ吉也

〔五月十四日〕

○十四日晴天、上堂馴晴天終日、無事七半時より登壇相始、
九半時より諸寺甚親切終日、供養施主岡田治助

〔五月十五日〕

○十五日雨天、完戒謝拜□縁戒□戒或中より説戒、願来些説
了、只上堂遠州秋葉、豆州□□□□諸院□□□□廿人青松
寺より廿人、他邦より御朱印□、府□□三十一□尾州□□
女等来山、午時晴天、午齊遠行行益□了□□

〔五月十六日〕

○十六日晴天、今日江戸一番料理店庄家八百善え招請、秋葉
□□相伴に相連、四時より出歩、尤八百善にて町内并親類
二百人計帰戒□□七□帰寺。○秋葉山山門之額三摩施し、
三字頼来、立三尺、横四尺五寸、一□後逝去、停止十二日
依之御朱印延引。

〔五月十七日〕

○十七日晴天、住吉氏鹿島氏之招請、上下十人伴僧船にて迎來。五
半時出歩、今夜止宿近処簇本町家百人相集垂誡。願出垂戒
中鹿島画師方丈真影十一様を凶□□乃贊題し遣す。

〔五月十八日〕

○十八日晴天、五過舟に而住吉屋え相送り、浅草祝言寺にて
垂誡、浅草組合寺院東橋迄迎出、入寺小參、午前午後垂
誡、三河や五郎兵衛施主に而來參之者赤飯ヲ供養す。二千
六百人也、今夜祝言寺に止宿。○牧野備前守殿病氣にて御
朱印延引。

〔五月十九日〕

○十九日曇天、口上祝言寺ヲ辞ス。寺院送て神田橋に至ル。
○小賀小太郎に而休息□□用事相濟帰寺。○今午法泉寺且
頭田中氏□□□

〔五月二十日〕

○廿日雨天、五過大地震終日、半夏のみ。○同底□藕□先□
□□□□□□

〔五月二十一日〕

廿一日半雨半晴、永井筑□□ □□□大□□□□幾威
遣す、毛氈壹枚ツ、法泉受戒添菜、○午後、方丈□□招請
□谷治助、俳人得蕪來、○浅草曹源寺大会内願來。

〔五月二十二日〕

○廿二日晴天、円覚講中大久保觀音菴より廿四日之請に來画
師鹿島瀧龍方丈之画像十一幅、戒弟之大家共被相頼出來持
來。

〔五月二十三日〕

○廿三日漱雨、無事來客多し、戸沢播磨守奥方并薩州奥方よ
り示し和歌願來、六道五戒した書贈る。

〔五月二十四日〕

○廿四日漱雨、大久保観音菴之招請に赴く。此夜龍穩寺より

差紙来、如左

一 明廿五日、於牧野殿屋敷御着帳可被仰付候間御朱印写帳
冊等持参、正五時麻布宿寺え可被出候、此段申達候以上

五月廿四日

龍穩寺

長崎
皓台寺

一 返事 明廿五日正五時御宿寺え可罷出旨承知仕候以上

五月廿四日

長崎
皓台寺

龍穩寺

〔五月二十五日〕

○廿五日、大久保観音菴□□□□□□□□□□□□□□□□

□□滞留致□候処え□□□□□□□□□□□□□□□□

五過龍穩寺え出添書入手九時前水道橋寺社奉行□□

守殿宅にて池田小左衛門にて写冊二卷手目録二卷相出着帳

相濟□付に相渡候如左 一、五月廿九日六半時備前守宅□

□□尚又前日可被伺出候 ○今日、牛込天徳院にて中食、

水道橋より屋形舟にて方丈八半時帰寺。

〔五月二十六日〕

○廿六日晴天、昨日牧野に而着帳相濟候境、今曉龍穩寺え
届、尤夜前晚景に及候と申断候○今日龍穩寺え御朱印写冊
手目録相納候。

〔五月二十七日〕

○廿七日雨天、今日浅草大会曹源寺え先取持三人遣す。明日

御朱印改行用意、○三刹謝礼先例

恭具
金五百疋 方丈え 皓台黄泉和尚拜 折紙に金子相付 扇子はこ
拜表打付書 片木付

金式百疋 皓台寺 同断 片木のみ扇子なし

金百疋 皓台寺 同断

監寺大和尚
奏者相尚
金百疋 皓台寺 同断

已上、麻布龍穩寺分

金式百疋 拜表仕立方同断 二片木にのせる扇子はこ

金百疋方丈 同断 奏者相尚 一金式朱

右大中寺、総寧寺両刹え右之通也

天明七丁未□□□

寺社奉行、御朱印奉行□□

仕 手札如下

御朱印改相
為御礼罷出

長崎
皓台

御朱印御改相済候、帰国可致処、浅草曹源寺大会并戒会請待御座候付帰国延引致候

〔五月二十八日〕

○廿八日嗽雨、大衆浅草大会え移る○今日牧野御朱印改伺に可指南に付正四時、船にて水道橋迄行、直に牧野え行候処、公用人池田小左衛門出會、明廿九日□□御朱印御改候処、明々急に備前守登城□□候付相成候間、来月三日日本多下総守にて御守御座候間、□□御渡申候、切紙本多え今日御持參可被下と被申依之乃本多行候処、明廿九日引渡に相成、今日ハ公用人□居合不申候故、乍御大儀明日出可□□候、乃写冊手目録并龍穩寺添書牧野殿えおさめ様子申入罷候、乃浅草安居。

〔五月二十九日〕

○廿九日、今日台雲寺退全代寺にて本多え伺出す。尤病氣と申上候并宿所替候わけ相達候。○本多侯より来三日御朱印改之、切紙本文如前、○此夜大会配役詰切安居八十六人通廿九人。

〔六月朔日〕

○六月朔日、配役□□□□大清規開講。○天童鼻直眼横規□□寺来五逆児□□混沌穿竅者向人中に相仙姿□

〔六月二日〕

○二日雨天、今日御朱印伺□□□□□□大□講□両度手於駕人足晋物等用意

〔六月三日〕

○三日晴天、朝七ツ時出門。○駕□侍二人、御朱印、長持二人、宰領一人、□僧一人、伴僧一人合羽籠一荷片一箱一人長柄一人草履取一人上下□□□□六半時、南八丁堀本多下総

え入、別席にて暫時待合、牧野備前守殿五過時分御入、牧野下総両侯立合御改相済、夫より牧野殿青山殿寺社奉行長崎奉行戸川播磨守え礼に出、関三利へも直到、万事目出度相済、尚又勝手次第帰国可致旨申渡候、七時帰寺。○尾州藤之井殿え蘭鏡遣す。

〔六月四日〕

○四日晴天、早天青木丹波守筑後守来伺候、御朱印○改ニ付、万事□□□申来一一指南□遣候、青木并本蓮寺とも十日出立之よし。

〔六月五日〕

○五日、法華開講、府内寺院卅四寺来入、開講偈云○化城火宅皆郷土□子鈴嶺遥隔父廬老謾言病度量却憐鷺子立門戸□法語終了○碧岩会之□門隣寺濟門和尚、其外町家旗本□□来山□□□要之和尚へ托し尾州并に長崎え書状出す。

〔六月六日〕

○六日晴天、今日作務。○青木へ□外○熱き日はししやす□□□□長崎の□□□□□□□□□□□□□□□□
□宿別離□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□青木秋葉山両主人□直付牛込宗参寺小石川□道恭□□遣す○青木え○熱き日は、しはしやすらへ六月のか□□□□□□長崎□□す

〔六月七日〕

○七日晴天、拙衲居間新出来○此日行智え修禅寺和尚頼□□申遣候使西核遠州金岡寺来拜○林大学頭来訪之由、申□□此方□行申遣候用人内田開太 藤原運平西尾喜右衛門山田弥十太より状来○田中より毛縷□被布一領送り来。

〔六月八日〕

○八日暑晴、無事五味平馬殿より使者土用見舞来、其外土用候、来客多し。

〔六月九日〕

○九日晴天、乾亮青山因幡守、本多下総守、戸川播磨守え病
 氣届に罷出候^{下文如}、皓台寺儀御用相濟帰国可仕候処、持病
 差起候て歩行難相成候故、滞留養生仕度奉存候、全快御届
 申上候節、長崎御奉行えの御返翰頂戴仕度、此段御申上候
 以上 戊六月 皓台寺役僧印^{長崎}

〔六月十日〕

○十日晴天、行乞山下松坂や点心、大衆隣寺随喜共百廿九人
 出分衛。

〔六月十一日〕

○十一日雨天、今日方丈本国寺^{浅草}且中仏事ニ付請待、○豆州
 修禅寺□□□梵字行香法印え頼遣候使僧西核

〔六月十二日〕

○十二日雨天、無事来客 □□

〔六月十三日〕

○十三日雨天、無事

〔六月十四日〕

○十四日晴天、無事浅草寺院え使僧道哲遣す。

〔六月十五日〕

○十五日、万松和尚使僧に而龍穩寺え上用見舞遣す。青松寺
 も□□
^{方丈え茶箱南縁○籠りえ南縁□差遣候南縁一步}

〔六月十六日〕

○十六日、総寧寺え方丈遷化ニ付弔□使僧退全行香資南□□
 □退全了、酬雲光院^{深川浄土檀林寺}行○青松寺より使僧来^{金二}○

〔六月十七日〕

○十七日晴天、無事。市谷屋敷女中来、午後灸治。○今日切
 三之巻講了、知事清規講了。

〔六月十八日〕

○十八日晴天、立秋なり。○退全、午後大円寺行。

〔六月十九日〕

○十九日晴天。○□酬雲光院行本庄□。□水野采女行、日世
約松平内記石千□□来約束。

〔六月二十日〕

○雨天、退全、雲光院行留守のよし。終日来客のみ、行智より書状来。今日林大学頭殿より用人使者来、遂菓子一箱。

〔六月二十一日〕

○廿一日、水野采女行帰路、豆州修禪寺へ見舞、法泉大円退全示□、今夕退全法泉寺行、○行智より書状并随求経来ル、○幾□□□永井□□沢□屋敷え使者に行。

〔六月二十二日〕

○廿二日晴天、市谷御屋敷より女中三人来。

〔六月二十三日〕

○廿三日曇天、法泉渋谷行、○薬師寺筑後守より之使者来、
恭使僧□□□

〔六月二十五日〕

○廿五日曇天、退全法泉寺行○大沢仁十郎より使者来○四□、

〔六月二十六日〕

○廿六日晴天、法泉渋谷行之筈、○晚方法泉より状来、○□
□より見舞□

〔六月二十七日〕

○廿七日大雨、市谷御屋敷より使来、○提婆経講了。

〔六月二十八日〕

○廿八日雨天、市谷御殿より三□仏開光願中老三人来。

〔六月二十九日〕

○廿九日半晴天、布薩説戒来参多し。

〔六月三十日、七月一日、二日〕

○晦日、七月一日、二日、如常大雨□□○小野快□来拜、

〔七月三日〕

○三日晴天、今日仏庵宅え請待、○退全戸川え滞留願出、寺印持参。

今夕仏庵にて夜□時々相成、住吉伊右衛門方に止宿。○戸

川病気全快聞届。○中勘より袈裟献上。

〔七月四日〕

○四日晴天、五半時帰寺如平生候

〔七月五日〕

○五日半晴天、早朝より青松寺林大学頭深川雲光院え□、今日休講、

〔七月六日〕

○六日曇天、染谷、守村両氏え書状、手鑑返上。

〔七月七日〕

○七日晴天、青松寺方丈来入、八過より日暮に及□話

〔七月八日〕

○八日晴天、今日布薩説法来客如常、今日大清規講了。

今日豆州殿勝寺祖居掃圀に付修禪寺スリケサ遣申候

〔七月九日〕

○九日曇天、青松寺方丈より上膳丁寧也。戸川播磨守より明

日役僧出□来別□□相渡候。

〔七月十日〕

○十日晴天、今日法華満講。○退全戸川え罷出滞留聞届出□□方丈今夕松応寺え招請。△小野久内日向守之為ニ説戒

□□□□諷経□□方丈□□□□□□□□□□
晴天□時□□□□□□

舟ニテ□川え移り、大衆は被害□血脈□□浅草□

〔七月十三日〕

○十三日無事

〔七月十四日〕

○十四日無事

〔七月十五日〕

○十五日無事

〔七月十六日〕

○十六日、川越養寿院、深川□□戒□院願箕の輪梅林寺より

戒会之事、住吉主人とて申入相断□□

〔七月十七日〕

○十七日、右落著。△八月二日より竹田丁大円寺戒会。△八月九日より深川長□□戒会、△八月十八日より川越城養

寿院戒会相触定并請拝相済、○今日、緇林年芳校訂畢了。
瑞泉院和尚へ□す。

〔七月十九日〕

○十九日、市谷洞雲寺え請待舟にて迎來、今晚止宿、五味平馬薬師寺筑後守え見舞、戸川殿長崎行暇乞に使僧退全遣す。

〔七月二十日〕

○廿日五過、洞雲寺出立、五味平馬薬師寺筑前守え尋、九半過舟にて帰山、□夜和泉村泉龍寺元綏和尚授戒之請にて□
□限相通り故即切□

〔七月二十一日〕

○廿一日雨天、終日無事京師へ正法眼蔵等校訂、再直に出す。

〔七月二十二日〕

○廿二日曇天、今日染谷の請におもむく、夜分に入帰り往還
ともに船なり。

〔七月二十三日〕

○廿三日、今日晴天、祝言寺三河や来拝、廿七日小野日向守
え請申来、

〔七月二十四日〕

○廿四日晴天、無事閑□の□こ為家内講反尔録、

〔七月二十五日〕

○廿五日曇天、曹源寺中村仏菴、聖応寺見舞為中村氏作天竺仏記東坡如□□

〔七月二十六日〕

○廿六日晴天、長慶寺来請、此方より越後縮一偈拝具遣す、
午後本□□五百羅漢え参詣、□□深川八幡宮え参拝。

〔七月二十七日〕

○廿七日晴天、小野日向守□□□請、松平図書頭廿九日□□
□□□□の□

〔七月二十八日〕

天○□□□□□□□□□□出□松平図書来拝□時二及法泉寺□氏
□祝言寺□□□□

〔七月二十九日〕

○廿九日大雨、□□町大円寺え移ル、

〔八月晦日〕

○晦日、授戒配役、晴天今日□□島坂倉□え使者亀之助遣
す。

〔八月朔日〕

八月朔日晴天、今朝授戒配役。

〔八月二日〕

二百より八日迄大□□授戒
二日授戒啓建、戒弟三百卅九人、○已下、戒会中の事不

録、八日満戒、今日深川長慶寺え移り、今晚配役九日より十

五日迄長慶寺授戒

〔八月九日〕

九日戒会、啓建戒弟四百十八人、○今日退全、青山因幡守
牧野備前守え出、長崎奉行え之返翰頂戴。戸川氏は明晩参
上のはづ、

〔八月十日〕

十日、退全戸川氏え添書受持、○寛隆□□に付龍穩寺行、

○青松寺より使僧見舞来。○

〔八月十一日〕

○十一日早天、退全、寛隆龍穩寺行、○已下戒会中之儀不
録。

〔八月十四日〕

○十四日、徳山五兵衛相見に来、○因幡元島侯贄物、青松寺
より頼来。○肥前大殿より心経頼来、二紙かき遣使者并賢
崇寺同応和尚礼に来、

〔八月十五日〕

○十五日満戒、○板倉周防守殿奥方より戒脈頼来、上堂了□
出立、今夕板橋宿り三川屋五兵衛にて休足、送り人百六十
人計、三川屋にて赤飯□□出す。七過板橋本陣着、送り来
止宿。大円寺。法泉寺。円徳寺。天徳院。
長慶寺。祝言寺。日輪寺。在家。□人。

〔八月十六日〕

○十六日、七時起明六過出立、大井宿迄川越より迎来。八半
川越養寿院□□

〔八月十七日〕

○十七日早朝、授戒配役現人四
十七人飯後、横田氏孝顕寺え見舞、
○此夜□□□□戒会啓建、已下七日
之間□□○惟一和尚、□□□□

□龍穩寺用状来□退全廿一日早朝行○川越養寿院戒会、入
戒千四百廿二人、

〔八月二十四日〕

○廿四日満散、

〔八月二十五日〕

○廿五日御用にて寺社奉行稲葉丹後守殿淀城主

〔八月二十五日〕

○廿五日、御紋付共幕相用候儀、稲葉丹後守殿にて御聞届

〔八月二十六日〕

○廿六日より九月三日迄、方丈御病氣三間乃確田氏別也。丁に滞留

〔九月四日〕

○九月四日、午後江戸出立、今晚板橋脇本陣池田庄兵衛泊
り。

〔九月五日〕

○五日、明六出立、大宮宿本陣栗原弥助にて中食、今夜鳴し
□□陣瀬田庄左衛門泊り、廿四日京越後屋治兵衛え金十五
両贈ル、忠藏殿世話にて出。

〔九月六日〕

○六日七半出立、深谷□□□や五左衛門中食、今夕新町宿小
林甚左衛門泊□□此間中始終快晴今午安中、金井宗助中
食、今夕坂本永井善右衛門泊、當四日、万松寺え免状遣
行、荻著献上。

〔九月八日〕

○八日晴天、今午追分宿若林次部左衛門中食、今夕望月庄野
半平泊、

〔九月九日〕

○九日晴天、暁□重陽之拝賀了出立、七半立、○途中栗を捨
て山中無曆よりしひを、△曆てふ物こ□なければ菊の花匂ふ

山路に□ふ柴□、尔時、和田本陣米谷鉄五郎より栗飯小豆飯、今夕下諏訪伊藤留泊、乃本陣温泉に□□氷餅献上、

〔九月十日〕

○十日漱雨、洗馬本陣志村武兵衛中食、後之山より古蹟を掘出しとして和□を乞ふ、名物の蕃香切松茸等を出す。今夜□□井徳□泊り、桑紙献上。

〔九月十一日〕

○十一日晴天、福島御□所如例、
○□□□□□□□□
中食、今夕園原本陣富吉

〔九月十二日〕

○十二日晴天、中食妻籠宿本陣林□左衛門方□帳□□、□□月樵富士山、石峰□□二幅贄を乞ふ。即席望に応ず。今夕□本陣市岡長右衛門泊り、宗泉寺方丈拝拝、

〔九月十三日〕

○十三日曇天、大久手宿保々長左エ門中食、○大井問屋分、此間万松寺召連御迎に出候□え御延引之、追触来御帰山にと申、乃大井宿より今夜中飛脚にて今日御通行と申遣候由○今夕、伏見本陣泊、万松寺より迎使来居、授戒、十八日啓建之由申来、

〔九月十四日〕

○十四日晴天、伏見七立、土田にて天明、小牧宿迄万松副寺末寺、此辺寺院出迎、正七時大光院え着、万松方丈役寮一同来賀、

〔九月十五日〕

○十五日晴天、今日より十七日迄、大光院にて心経提唱、四衆□拝、

〔九月十六日〕

○十六日、大夫大道寺。高木。小笠原。山添より使来。晋物

来、風外、鉤玄ヲ□□
来拜

〔九月十七日〕

○十七日終日、来客多し、諸寺院来邸、謝物として心経忘算
一卷進上、

〔九月十八日〕

○十八日正五時、万松寺戒中不録万松より行例迎來、移寓戒会中之事不録、
御□□御殿より女中日々来參。大衆百六人、○廿四
日、大夫四軒え□□使僧として乞暇、

〔九月二十五日〕

○廿五日雨天、□駕末山等山王迄送、士女岩塚迄送、岩塚に
て万松□中食出、佐屋より乗船、七時桑名すかや源七泊、

〔九月二十六日〕

○廿六日七時、豆州津玄仙途中迄出見舞、庄野本陣にて中
食、今夕、坂下大竹屋陣本陣泊、主人血脈を□書

〔九月二十七日〕

○廿七日晴天、七立、水口中食、□津□□□□
尤□□え金式百疋遣□□□□□□□□□□
使僧玉島安徳寺逢伏見え□□□□侍一人京え□□□□
正九泊、海老長、玉源見舞来

〔九月二十八日、二十九日〕

○廿八日、○廿九日早朝、伏見奉行尾州臣基左衛門同役人加藤進七郎え晋物遣、三拾石
式船、□□買切、尤壹艘代六匁五歩八間屋迄、今日伏見に
滞留、今夕下坂伏見奉行所新竹菓子成立詠草願来。

〔九月晦日〕

○晦日朝五時、大和屋林蔵より着、下り船欠合、夜□播磨や
弥七□金五両願□

〔十月朔日〕

○十月朔日晴天、退全出林板行物欠合相濟、下坂舟十一人乗
八丁立、式百六十□□引合船証文相□、尤小倉船也、此

日橋本藤右衛門、箱崎長左衛門、はりまや□家内、近藤半
五郎妻并女伊東長右衛門より見舞来、

〔十月二日〕

○二日晴天、□方乗込之的宿料并□賃百廿五匁払、残銀は小
倉払之はつ

〔十月三日〕

○三日晴天、一日阿□川に淀留、○先なき□□某の身ぢみて、たく時雨□空をしりぬ
今日天保山見物に行

〔十月四日〕

○四日半晴天、朝五時おし出し七過、明石に着日□北風にて
帆を持、天明□備前牛窓に着、□□舟三十五里、小林□一
逮夜、

〔十月五日〕

○五日晴天、小林一献供諷経、□順風、天曉迄芸物□□事

〔十月六日〕

○六日夜成嗽雨、今曉快晴、午後風あしく□□津和之浦□□
□

〔十月七日〕

○七日晴天極、逆風にて尚津和之浦に□□を□光□

〔十月八日〕

○八日逆風、八過より聊風おさまり、夕方上之関えつく、夜
半より又推切□

〔十月九日〕

○九日曇天、朝五時中□□□□□□□□上下□食今夜半
□□□□□□□□暮雨□風殆不□

〔十月十日〕

○十日朝西風□停夜□□□
西風慕雨、□、多謝□神□警策□□打破□明□□□□の上

に時□ぬ月の曇哉いつ日とまりの浦の友ふね、

夕方丈不快。

〔十月十一日〕

○十一日快晴、天曉新□□を出て三里行、又逆風つよく元山浦にかゝる、

〔十月十五日〕

○十五日曇天、七立、中原にて中食、今夕佐嘉城泊、宿屋不都合に付呉服町光明寺と申一向宗之寺に泊□、退全、昇二郎帰る。

〔十月十二日〕

○十二日晴天逆風、今日又元山にかゝる風波あらく繫舟おゝゆりならず

〔十月十六日〕

○十六日晴天、今日中食、端葉にて致、今晚嬉野泊。

〔十月十三日〕

○十三日北風、夜半よりおし出し、五半時下関につく。直におし出し小倉に着す。□□やに而入は中食、先触を出す。午後出立、今晚小谷瀬泊、

〔十月十七日〕

○十七日七過立、彼杵え五半時着、舟二艘買上出帆、然処風潮あしく、八半時、時津え着、中食今日慈母祥月、船中焚香読経諷経、時津□□暑先触延着に付、無出迎、四ツ時過、帰山大衆一列五磬三拜、帰方丈、

〔十月十四日〕

○十四日晴天、七半立、飯塚長崎屋四郎右工門中食、是より退全、昇次郎宰府□廟参謁、今夕山家近藤弥右工門泊、今

○帰山吟擬寒山詩、流為枕雲為衣雲自水由玄復帰春飛散秋葉

落処々随縁有是非俗眼知青白□□楊紫朱真俗幽中雨一霄、入□□□兄□近吾□□□輝□自依然残照□□□□□

一、銀拾七貫目 副寺寮より請取

銀式拾二匁壹歩

蠟燭諸筆小払

払方

錢六拾七貫五文

一、銀壹貫五百式拾壹匁四錢 參府仕度

一、金壹歩式朱

東海道川越

錢貳貫三百七拾二文

諸雜用

銀六拾二匁

伏見上□□

一、銀式百六拾七匁

同毛氈代

錢式拾八貫五百五拾六文

運賃

錢三貫四百六拾八文

并諸雜用

金七兩

□□□

一、金式兩壹歩一朱

上下□□

一、同二歩

草□長□□
□物代渡又

錢三百七貫八百八拾八文

□□出入□□□

一、同拾九兩式歩二朱

拜礼并御暇

一、金拾兩三分

上下休泊茶代

銀四匁五歩

登城諸人用

銀百九拾式匁五歩

祝儀共

一、同拾四兩三朱

在府中買物

錢百式拾六貫七百八拾式文

銀壹匁三歩

諸払

一、金三分三朱

上り船賃

一、同九兩二分

在府中御出駕

銀三百目

飯料祝儀諸小遣共

銀式歩

并使僧使者諸人用

錢式拾三貫百壹文

一、同六兩壹歩一朱

御朱印改

一、金壹歩壹朱

下り船賃

銀八歩

諸人用

銀式百六拾五匁

飯料祝儀諸小遣共

一、金四兩二朱

在府中部屋雜用

錢九貫六百六拾文

一、同拾二兩壹歩二朱

龍穩寺返金

一、金式歩式朱

上下立場小遣

一、同六兩

參府入用借入分
□湖□渡ス
但福壽院返金□□

一、同□兩壹分 在府中諸寺院

銀二匁四歩 并に役人□□

一、同壹兩三分式朱 下男吉□渡ス

一、同壹兩二朱 尾州諸寺院

一、同式拾七兩式分 □□□□□□

一、金式拾壹兩三步一朱 出府諸入用

錢七拾五分 毛氈壹枚代

一、同壹分 乾亮和尚へ渡ス

一、同壹兩壹分三朱 勘定不足

✕ 金百五拾六兩壹分二朱

此銀九匁五百三十九匁五厘

銀貳貫六百三拾九匁二歩二厘

錢五百七拾八貫九百三十七文

此銀五貫二百十匁四歩二厘

□銀拾七貫三百八十八匁六歩九厘

右之通相違無御座候以上

戊十月

○從長崎小倉迄

長崎 日見 矢上 諫早

大村△ 彼杵 嬉野 四里 柄崎 四里 牛津

神崎 三里 中春 一里半 轟 壹里 田代

原田 一里半 山家 三里 内野 三里 飯塚

木屋瀬 □里 黒崎 三里 小倉 豊州 □□

○從大坂江戸迄

枚方 二里 橋本 □□□八幡山 淀 一里 伏見 三町

大津 石里 膳所 二里 □□ 草津 三里 石部 三丁

□□ 二里七丁 土山 一里半 勢州 □

龜山 一里二十丁 庄野 廿里

桑名 七里 宮明神 □

岡崎 一里半 □□ 二里 赤阪 十六丁 御油 二町

吉田 二里 二川 一里十丁 白須賀 一里 新井 〇舟 〇

舞坂 十二丁 浜松 三里 □ 見付 フジ見ユ 袋井 一里十

道哲 〇 掛川 一里半 日坂 二里 □□ 小 □□ 金谷 〇 一里 □ 島田 □□

出役 退全 〇 〇
二百八十匁 吉田 二里 〇 〇
乾亮 〇 〇
道哲 〇 〇

□□一里半 岡部^三里半

□□一里半 府中

□□一里二丁 冲津^二里十二丁

油井一里 蒲原^二里

○^三里六丁 原^二里半

沼津^二里半 三島^豆州^三里廿丁

箱根^三里六丁 小田原^四里

□津^丁 平塚^三里

○従大阪西国里数大略

兵庫^十里 明石^播州^十六里

姫路^廿四里 西宮^五里

児島^四十里 下津井^五十里

鞆^六十里 広島^芸州^五里

蒲刈^八十里 上関^周防^一里

下関^長州^一四十五里

□太平□ 隅田川□□